



道内最大の貨物ターミナルで大学生が「物流」を体験

令和6年6月8日（土）、札幌貨物ターミナル駅において、札幌地区トラック協会、北海道と共同主催で大学生を対象に物流施設体験会を開催しました。

この体験会では、年間取扱量が北海道で最も多い札幌貨物ターミナル駅の構内において、貨物列車の入線、フォークリフトによるコンテナの荷役作業を間近で見学するだけでなく、実際に運転士が練習のため使用しているシミュレーターを操作・体験するとともに、最新のマルチテナント型物流施設「DPL札幌レールゲート」も見学することにより、**物流の「今」を体感**してもらいました。

学生には**物流産業の重要性**を「学ぶ」「聞く」「見る」ことで理解し、**物流業界への関心を高めてもらうこと**を目的としました。

参加した学生の中から、将来の物流業界を担う人材が現れることを願っております。

参加者：北海商科大学 3年生 15名

見学施設

日本貨物鉄道(株) 北海道支社 札幌貨物ターミナル駅

貨物鉄道輸送は石油、液化天然ガス、紙・パルプ、食料品など暮らしに不可欠な物資を運ぶ欠かすことのできない社会インフラ。北海道から本州へ輸送されるたまねぎの約70%、じゃがいも、米などは約40%が鉄道で輸送

(写真提供：日本貨物鉄道(株)北海道支社HPより)



大和ハウス工業(株) DPL札幌レールゲート



大和ハウス工業(株)と日本貨物鉄道(株)の共同事業による、北海道最大のモーダルシフトの拠点となる先進的物流施設。雪や雨などの天候の影響を受けずに荷物の積み下ろしや通行ができるなど、施設内の作業効率を高めることが可能

(写真提供：大和ハウス工業(株)HPより)

体験会の様子



貨物鉄道輸送を効率よく行うためにあらゆる工夫がちりばめられており、2024年問題の解決にかなり近づいていると感じた。まだすべてを解決できてはいないが、問題を解決し北海道のすべての産業に貢献できる素晴らしい業界であると考えている。

また見学の際にも安全第一を意識していたが、貨物ターミナル及び機関区など施設内すべてで安全が徹底されており、働く上でのリスク回避等、働く人を守る取組がされており非常に良い印象を持った。

今回の見学会を終え、物流のリアルな現場を見ることができ、物流システムに対する興味と好奇心がいっそう広がり、就職先としても非常に興味深い業界、企業であると感じた。

貨物や貨車、トラックやフォークリフトにまでタグが装着されることで、すべてがIoT化され効率化が進んでいることや、列車の運用に対する安全対策が非常に厚く整備されているところなどが強く印象に残っています。

物流業界は今後も職としてなくなることはなく、生活していく上で必要な業界である。Amazonやメルカリの宅配だけでなく、飲食店・スーパーマーケットの食材等の様々な業界を下支えする大事な業界が物流業界であるため、その業界に入ることによって、たくさんの人の支えになり、やりがいを感じることができると思います。

体験会後の印象として、札幌貨物ターミナルを中心に道内・道外へと輸送されており、その輸送量や輸送される時間、貨物列車の整備等全体を効率よく最適に考えられていることを実際の見学を通して知ることができ、1人1人がたくさんの人を支えているんだと感じました。

総括

- ・体験会后、13名の方にアンケートのご協力をいただきました。
- ・体験会は概ね好評で、6名の方から「就職先として考えている（就職活動の参考としたい）」といった旨の回答をいただいております。
- ・その他の学生からも「まだまだ知らない物流の側面を知ることができ、興味をもつことができました」「やりがいを感じれそうな仕事だと思った」といった意見がございました。
- ・北海道運輸局として、このような物流施設の体験会を今後も継続して実施していきたいと考えております。